

贈呈式に参加したBONDの古川代表取締役（左から2人目）と九産大の榊教授（同4人目）ら



## 九産大に音声ソフト寄贈

北九州市の企業「BOND」

動画を使った人工知能（AI）の伝達ツール「スマートアバター」を開発する北九州市の「BOND」は17日、

宅高齢者の状態を把握した上でスマートアバターを使って呼びかけ、行動変容を促すことなどができるシステムを開発している。これまで開発に必要な音声合成ソフトウェアは貸与されていたが、今回の寄贈で研究を加速させ実用化を目指す。

共同研究は2022年4月、BONDと同大の機械工学科、臨床心理学が始めた。在

九産大出身でBOND代表取締役の古川ひる美さんは「母校との社会貢献への第一歩が

かない、大変うれしい」。同大機械工学科の榊泰輔教授は「国の地域包括ケアシステムは、人が足りないのが最大の問題と言われている。機械技術の力とアバターで、うまく伝えられることを次のステップとしたい」と話した。【山崎あずさ】

ニュースサイト

<https://mainichi.jp>

毎日ビューアー